

上野公園の三橋遺構について

(当会会員周知用資料を転載)

永らく工事が行われていた表題の遺構が完成し、1月19日(木)、服部征夫氏(区長)、浦井正明氏(寛永寺貫主)、水島道德氏(台東区議会議長)などの出席のもと、テープカットが行われました。1月20日から公開されます。



●場所：下町風俗館南側。龍門橋碑の前。



●来賓挨拶等から得られた情報

- ① 本遺構は平成17年、地下駐車場の工事の際、発見された。
- ② 本来の場所(黒門跡南側)に設置したかったが、そこは地下駐車場や京成電

鉄駅などがありとても無理だった。今回設置した場所も都の所有なので都と長期に交渉した結果許可が得られた（風俗館の運営は台東区だが、土地は都から借りているとのこと）。

③ 実際に出土した石材や木材を使っている（木材はほぼ地表にあるので写真には写っていませんが、写真の矢印①方向に設置されています）。

●説明板について

写真マル印の説明板の文章をそのまま入力した結果を以下に示します。

上野広小路遺跡三橋遺構（台東区有形文化財）

台東区上野公園 2 番

上野広小路遺跡三橋遺構は、台東区立上野中央通り地下駐車場を建設する際の敷地内発掘調査により、平成 17 年度に発見された石組水路の遺構で、構築年代は 17 世紀後半頃と推測される。

江戸時代には、不忍池の南東角から広小路を横切るように東へ水路（忍川）が流れており、忍川には寛永寺に参詣するための三つの橋（中央に将軍が参詣する時に使用した大橋、左右に一般用の小橋）が架けられていたことから、「三橋」と呼ばれていた。

この遺構は、三橋の下部構造（橋台）部を構成する石組水路であると考えられている。

発掘時、石組水路は深い部分で上幅 3 メートル、下幅 1 メートル、高さ 3 メートルあり、石垣は「間知石（けんちいし--注）」を積上げ、底面の砂層の上には板材が組み合わせて敷かれていた。

本遺構は遺存が良好であり、底面に類例の知られていない板敷きを有するなど貴重である。また忍川と上野広小路の歴史を解明し、寛永寺と三橋の関係を考える上でも重要である。

ここでは、上野広小路遺跡三橋遺構から実際に出土した石材・木材を使い、石組の半面を再現して設置・展示している。

令和.5 年 1 月 台東区教育委員会

（注）間知石（けんちいし）

広辞苑では「日本独特の形をした石垣用石材。奥に行くに従い細くなっている四角錐台状の形のもの」と説明しています。写真の矢印②がそうではないかと思われます。

台東区観光ボランティアガイドの会 前田